

大麻町ランドデザインについて（素案）

※本計画は、令和8年3月18日時点の素案です。今後、地域住民や関係者の意見、関係機関との協議等を踏まえながら、より良い内容となるよう充実を図ってまいります。

ランドデザインの位置づけ

ランドデザイン策定の考え方

本ランドデザインは、人口減少などの社会状況や、大麻町が有する歴史文化資源などの地域特性、そして町民アンケートや未来づくり会議の意見等も踏まえながら総合的に整理したものです。
いただいた様々な意見については、地域の将来像やまちづくりの方向性、今後の取組イメージを検討する際の参考としております。

ランドデザインの役割

本ランドデザインは、大麻町の将来像やまちづくりの方向性を示すとともに、今後のプロジェクトの方向性や可能性を示したものです。

プロジェクトの位置づけ

掲載しているプロジェクトは、現時点で実施を決定しているものではありません。
今後は、関係者との各種調整や地域住民の意見などを踏まえながら、個別事業として具体化を検討していきます。

目次

CONTENTS

| | | |
|-------------------|-------|----------|
| 1 目指すまちづくり | > > > | 4 |
| 2 短期的プロジェクトの概要 | | 19 |
| 3 中期的プロジェクトの概要 | | 33 |
| 4 まちづくりの新しいカタチの検討 | | 39 |
| 5 今後の検討の流れ | | 44 |
| 6 参考資料 | | 46 |

01

目指す
まちづくり

目指すまちづくり – グランドデザインの策定について –

グランドデザイン策定の趣旨・目的

人口減少・高齢化が進行する中、大麻町では、商店の撤退や希薄化する地域の繋がり、高齢者などの移動ニーズへの対応など、様々な課題が深刻化しています。

こうした人口減少を要因とした、地域活力の低下を前提に、それでも大麻町に住むことが幸せだ、住み続けたいと思える、町の方向性やビジョンを描き、各種取組を推進していく必要があります。

そこで、地域の将来像となる大麻町グランドデザインを策定し、町に住む人の利便性や満足度を高めるとともに、町外の人からも魅力的に映るよう、取組を進めることが重要です。

グランドデザイン策定の方針

今、町が直面している課題に対応していくために、生活利便性の確保・産業振興・地域コミュニティの活性化・観光振興を4つの柱として、町民の幸福度の向上に取り組みます。

なお、グランドデザインは、近年の技術革新や社会情勢の変化等を見据え、適宜、見直しを図っていく予定です。

生活利便性の確保

暮らしやすくなることで、生活満足度の高いまちへ

地域コミュニティの活性化

地域住民が集まる居場所を創出し、まちへの愛着や人との繋がりを深められるまちへ

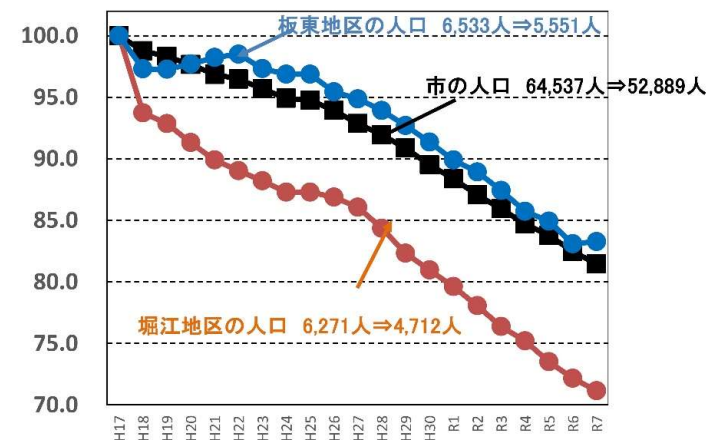
産業振興

安定した産業や経済が持続可能性の高いまちへ

観光振興

観光資源をより魅力的なものにし、また来たい、関わりたいと思うまちへ

本市人口と大麻町人口の過去20年間の推移
平成17年を100とした場合



戦略企画課 小字別人口より

目指すまちづくり - 4つの柱を設ける理由 -

生活利便性の確保

人口が減ると、需要が低下し、スーパーや病院の撤退が進み、生活が不便になり仕事も減る。また、若者が流出することで、高齢化が加速する。高齢者が増えると免許返納者への対応など移動ニーズが高まるが、運転手不足できめ細やかな移動ニーズに応えられなくなる。
⇒生活の基盤が崩れることが人口減少を加速させ、住みづらいまちへ。よって、住民が暮らし続けられる「生活利便性の確保」が重要。

産業振興

人口が減ると、地域内サービスの縮小などの経済基盤が弱体化する。人が減っても地域が小さくても回る、暮らしを支えられる、経済性の確保が必要となる。こうした経済性の下支えがなければ、生活利便性の確保や地域コミュニティの持続性は確保できない。
⇒基幹産業である農業や地域資源を活用した新たな創業に関する「挑戦」が生まれる「産業振興」が重要。

地域コミュニティの活性化

人口が減ると、人と人の繋がり、助け合い・見守りといった地域コミュニティが低下し、孤立や無関心が進む。特に、日常の中で地域との接点が失われると、シビックプライドを低下させ、更なる人口流出を招く。
⇒「用事がなくても立ち寄りしたい」、「あそこにいけば誰かいる」といった、日常的に人が集まれる場を確保し、「地域コミュニティ」の活性化を図ることが重要。

観光振興

人口が減ると、町内だけで経済や活動を完結させることが難しくなる。外部との繋がりが町の持続性を支える重要な要素となる。観光消費だけでなく、「また来たい」「関わりたい」と思う関係人口に繋げることは、町の価値の再認識や住民のシビックプライドに繋がる。
⇒歴史・文化資源は大麻町の大きな特徴であり、強み。外部からの「来訪」や「外部からの関わり」を通して内部を活性化させる「観光振興」が重要。

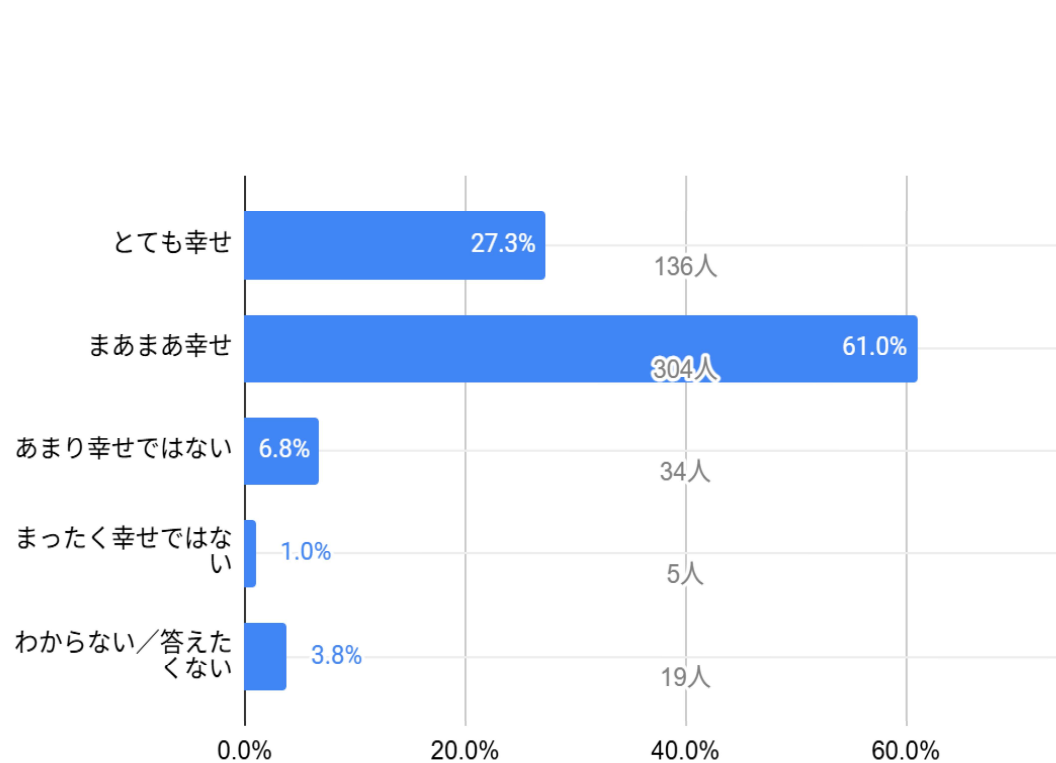
【まちづくりの方向性】

「生活利便性が確保できることで、様々な挑戦が生まれる」「経済の下支えがあることで、暮らしに余裕が生まれる」
「コミュニティが機能するから支え合いが生まれる」「外と繋がるから、内側が回り続ける」など
4つの柱が相互に補完することで、「この町に住み続けたい」「関わり続けたい」という状況をつくる。

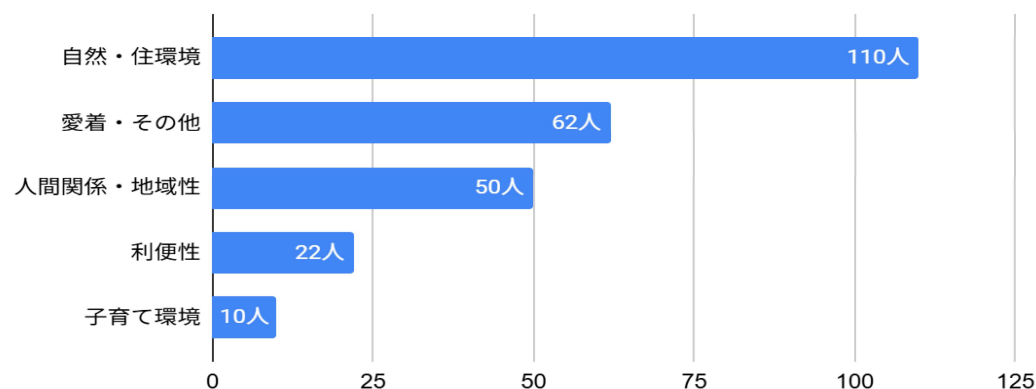
⇒人口減少下では、成長や拡大を前提とするのは難しい。多面的で相互に補完する仕組みが必要。
これらの取組を機能させることで、**人口減少が進行するなかでも、住民の幸福度を高めることを目指す。**

目指すまちづくり - 町民の幸福度 -

Q8: 大麻町に住んで幸せですか？(有効回答数:498人) Q9: Q8でそう感じた理由や、思っていることがあれば教えてください

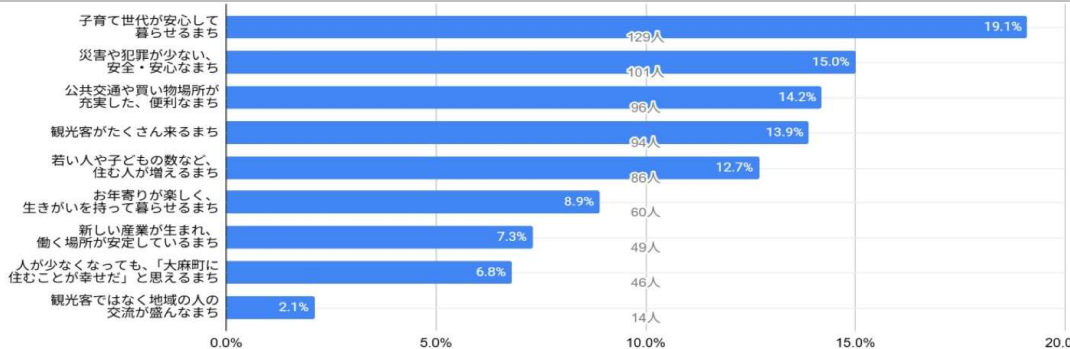


とても幸せ/まあまあ幸せを選択した理由 (自由記述のため回答数と一致しない)



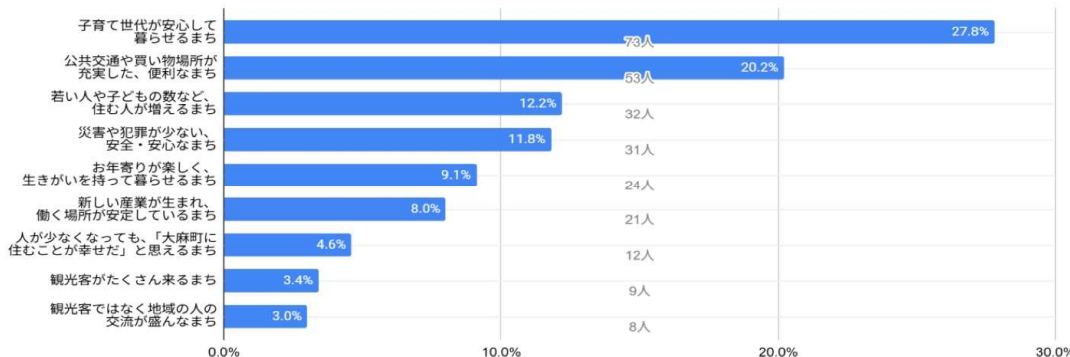
・住民の幸福度は、「自然の豊かさ」や「静かな住環境」といった町の魅力に支えられている。

目指すまちづくり - 町民が望む未来の姿 -



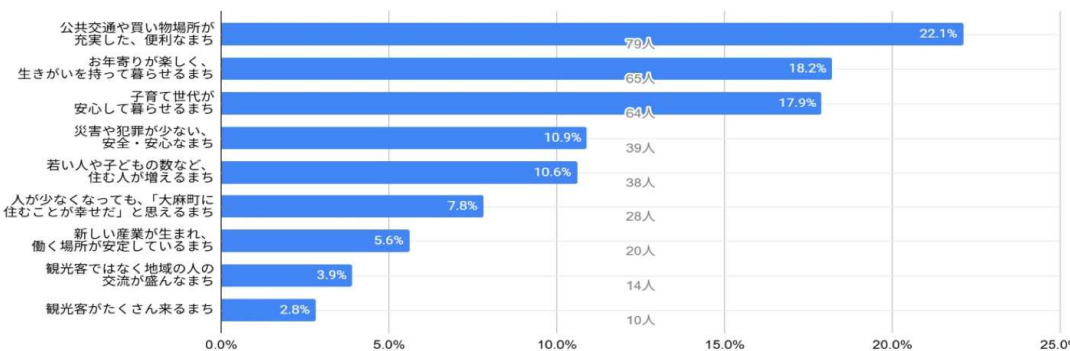
10代～20代（若者世代）が望むまちの姿 TOP3

1. 子育て世代が安心して暮らせるまち
2. 災害や犯罪が少ない、安全・安心なまち
3. 公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち



30代～50代（子育て・現役世代）が望むまちの姿 TOP3

1. 子育て世代が安心して暮らせるまち
2. 公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち
3. 若い人や子どもの数など、住む人が増えるまち

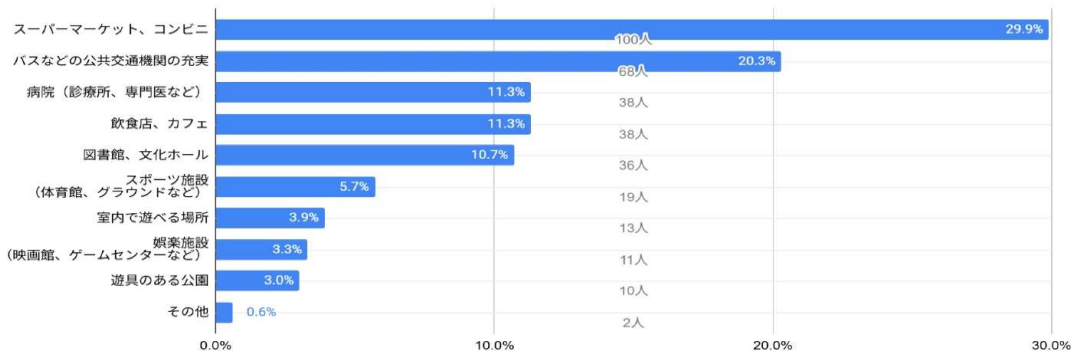
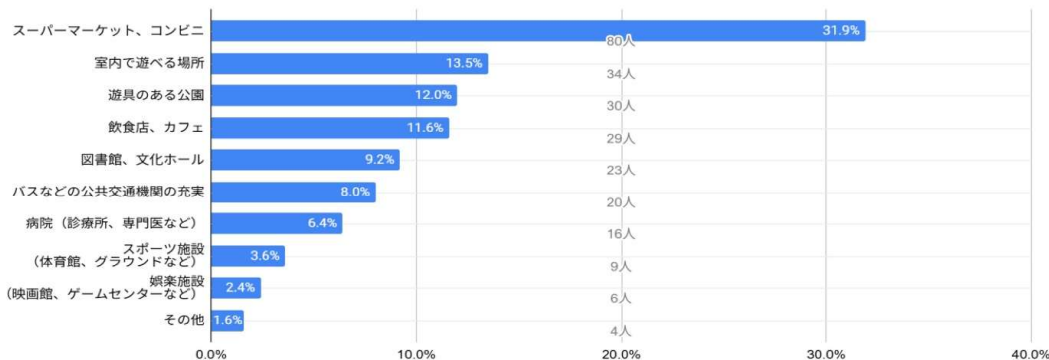
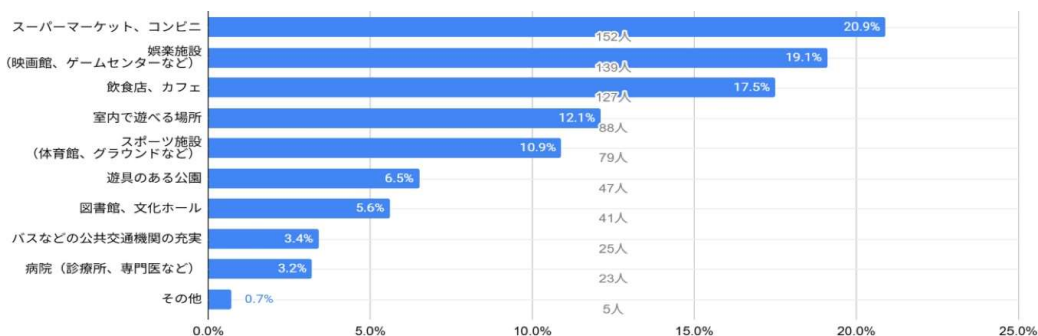


60代～70代以上（高齢者世代）が望むまちの姿 TOP3

1. 公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち
2. お年寄りが楽しく、生きがいを持って暮らせるまち
3. 子育て世代が安心して暮らせるまち

・すべての世代において、「子育てのしやすさ」と「生活の利便性（買い物や交通）」を重視されている。
 ・世代ごとに特徴も見られ、若者世代は「安全・安心」を、子育て・現役世代は「人口増」を、高齢者世代は「自身の生きがい」をそれぞれ重視する傾向があり、世代別の多様なニーズが存在する。

目指すまちづくり - 町民が求めているものは？ -



10代～20代（若者世代）が望む施設 TOP3

1. スーパーマーケット、コンビニ
2. 娯楽施設（映画館、ゲームセンターなど）
3. 飲食店、カフェ

30代～50代（子育て・現役世代）が望む施設 TOP3

1. スーパーマーケット、コンビニ
2. 室内で遊べる場所
3. 遊具のある公園

60代～70代以上（高齢者世代）が望む施設 TOP3

1. スーパーマーケット、コンビニ
2. バスなどの公共交通機関の充実
3. 病院（診療所・専門医など）
飲食店、カフェ

・「スーパーマーケット・コンビニ」は世代を問わず最も求められている施設である。
 ・世代ごとに求めるニーズは異なり、若者世代は「娯楽・飲食店」、子育て・現役世代は「公園など子どもの遊び場」、高齢者世代は「公共交通機関」や「病院」をそれぞれ重視している。

① 観光・賑わい（A班）

- 道の駅「第九の里」の機能強化
- 地域資源を活用した観光振興
- 大麻分署跡地の活用
（お試し居住＋チャレンジキッチンで移住や起業促進など）
- SNSで情報発信が弱い点を改善 など

⇒「主な意見として、既存資源を活用した交流・賑わい創出を生み出す取組について意見がだされている」

② 産業・仕事（B班）

- 耕作放棄地の活用（陸上養殖）
- 買い物機能の強化
- 市街化調整区域の見直し など

⇒「主な意見として農業を含めた新たな産業創出について意見がだされている」

③ 子育て・教育（C班）

- 公園・遊び場が不足
- 子育て世代が集まれる場所が必要
- 買い物・飲食機能の充実
- 津波が来ないエリアとしてPRしたら良い など

⇒「主な意見として、子育て世代が日常生活で困らない環境整備について意見がだされている」

④ 公共交通・移動支援（D班）

- シャトルバスなど新たな移動手段の導入
- タクシーチケットの配布などの移動支援の充実
- 観光シーンも見据えた移動手段の導入 など

⇒「主な意見として移動手段の利便性向上について意見がだされている」

目指すまちづくり - 町民感覚から見た大麻町の特徴 -

基本的な 価値観

大麻町の自然・落ち着いた環境への評価は高く、幸福度も比較的高い。
また、買い物場所の確保や利便性のある交通手段へのニーズは高い。

生活行動から 見える特徴

大型商業や娯楽などは、藍住や北島などの周辺地域を日常的に利用。
また、現役世代は車での移動に不安がないが、高齢者の移動に関する将来不安が存在。

世代別の傾向

買い物や飲食、移動や通院、子どもと遊べる場所など、世代差はあるが、共通して重視しているのは「利便性の向上」

未来づくり 会議委員の意見

子育て環境の充実や移動支援など、アンケートと同様の課題感をもっているとともに、移住や起業支援、プロモーション強化、農業振興など、地域の良さや資源を活用した新たな取組の提案がある。

【まとめ】

- 大麻町の住民は、自然や静かな環境といった現在の暮らしの良さを大切にしながらも、**買い物や移動、子育てといった日常生活の不便さに、現実的な課題意識を持っている。（世代間で共通している。）**
- また、飲食や子どもと遊べる場所など、人が集える場所、**いわゆるコミュニティが生まれる場の創出がまちづくりを進める上で重要と考えられる。**
- そのうえで、大麻町未来づくり会議委員からは、**新たな取組や挑戦が、生まれていくことを期待する声も見られる。**

課題

大麻町には、霊山寺、板東俘虜収容所に由来する第九の歴史、大谷焼など、全国的にも特徴のある歴史・文化資源が存在している。これらは大麻町の大きな魅力であり、地域のブランドを形成する重要な資源である。

一方、現状では歴史・文化資源が主に「**観光振興**」として活用されているものの、「**産業振興**」や「**地域コミュニティの活性化**」などと、**連動した活用は、まだ十分とは言えない状況にあると考えています。**

主な要因

① エリアとしての魅力形成が弱かった

豊富な歴史・文化資源は存在するものの、周辺エリアと連動した面的な活用が進んでいなかった。

② 滞在や交流につながる機能や仕組みが不足していた

飲食や体験などの受け皿が少なく、観光客が地域に滞在し、回遊するだけでなく、地域住民が日常的に集い交流できる場としての活用も十分ではなかった。

③ 情報発信が十分ではなかった

地域資源の魅力を体系的に発信する体制がなく、認知度が十分に高まっておらず、シビックプライドの醸成に繋がりにくい側面があった。



そのため本グランドデザインでは、歴史・文化資源を単体の観光資源として活用するのではなく、拠点施設の整備や空き家活用、マルシェ等の交流事業、シティプロモーションなどを組み合わせながら、地域住民が日常的に集まれる居場所づくり、エリア価値の向上や地域内外の人が関わる機会の創出など、**観光客だけでなく地域住民にとっても魅力ある場を創出する仕組みづくり**が必要であると考えている。

はじまりを醸す かも 大麻町

大麻町は、鳴門市の中でも、歴史・文化を受け継ぎながら、福祉や防災など、人の暮らしを支える機能が集積する地域であり、本構想では、そうした特性を活かしながら、地域内外の人が関わり、挑戦が生まれ、新たな価値を生み出すまちづくりを進めていく

目指すまちづくり - 目指す将来像（案） -

「はじまりを醸す 大麻町」

大麻町は、四国遍路の第一番札所である靈山寺を有し、人々の旅の「はじまり」となる町である。また、第一次世界大戦中に板東俘虜収容所において、ベートーヴェン「第九」がアジアで初めて演奏された地として、文化交流と共生の「はじまり」を刻んできた。さらに、酒造や醤油づくり、大谷焼に代表される陶芸文化など、発酵や手仕事を通じて、時間をかけて価値を育てる、「醸す」営みが根付いてきた。

「はじまり」とは、人が関わり始めること、挑戦の一步を踏み出すこと、地域の関係が静かに動き出すこと、などを意味しており、「醸す」とは、時間をかけて価値や地域におきる変化、担い手が育っていくことを意味している。

さらに、大麻町には多くの福祉施設が立地し、地域全体で高齢者や障がい者などを支える「福祉の町」としての側面を有している。加えて、古くから存在する寺社が過去の地震にも耐えて現存しており、「災害に強い町」でもある。人を支え守る地域の基盤が「はじまり」と「醸す」を支える土台としてあることも、大麻町の大きな特徴である。

そして、「はじまりを醸す 大麻町」とは、一過性の賑わいや消費を目的とするのではなく、人々が関わり、挑戦し、次の一步を踏み出す大麻町の地域特性である「はじまり」が、時間をかけて「醸す」ことで、未来へとつながっていく町の姿を示す言葉である。

このコンセプトのもと、「生活利便性の確保」、「産業振興」、「地域コミュニティの活性化」、「観光振興」を横断的に繋ぎながら、新たな人の流れや地域内の経済循環、担い手の創出などの好循環などが生まれる場として、20年後においても幸福度の高い地域の実現を目指していく。

- ・ **はじまり** ⇒ 人がくる、関わりはじめる、挑戦が生まれる
- ・ **醸す** ⇒ 新たな価値を生み出す。地域におきる変化



5つの方針

1. 行政が最初の一步を踏み出す

人口減少や担い手不足が進む中で、**最初の挑戦は行政が主体となって、場や仕組み**を立ち上げる。

また、社会実験の結果などを踏まえ、実態にあわせて柔軟な対応を行う。

なお、活動が定着し、担い手が育ってきた場合、可能なものに限り行政は環境整備や調整役へと役割を移行することも検討する。

2. 「生活利便性の確保」を「はじまりの土台」とする

人が関わり始め、活動や挑戦が生まれるためには、まず安心して暮らし続けられる基盤の確保が不可欠である。

このため、本計画においては、**買い物や移動支援など、短期的に生活利便性の確保を優先事項**として位置づける。

3. 「関わり始めたくなる暮らしの舞台」をつくる

未来を担う若い世代や子育て世代が、「何かしてみたい」「少し関わってみたい」と感じられることを大切にする。

訪れるための場所だけではなく、**時間を過ごし、関係が始まる「コミュニティ」の場**を創出していく。

4. 暮らしと活動の重なりから「地域の価値」を高めていく

新たな拠点整備や既存資源の活用を通じて、生活、産業、交流が重なり合う仕組みを作る。

単なる施設整備ではなく、人の動きや関わりが連鎖することで、点ではないエリア価値向上を目指す。

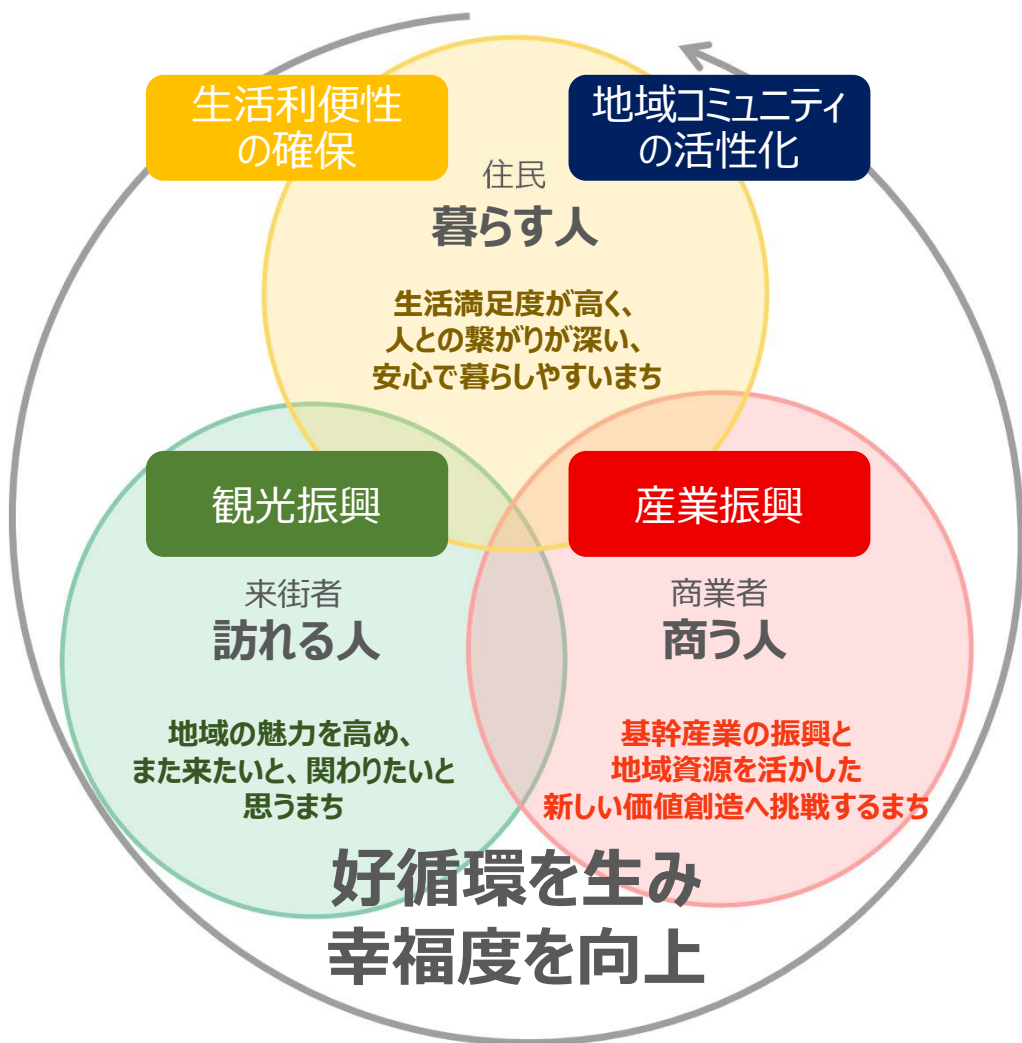
5. 技術革新を視野に入れた柔軟な対応

近年の技術革新はスピードが早く、**未来を見据えて完成形を固定すること自体が、かえって持続性を損なう可能性**がある。

このため、特定の技術や仕組みを前提とするのではなく、状況の変化に応じて、柔軟に取り入れ、見直すことを基本とする。

目指すまちづくり - 4つの柱の相互連携による幸福度向上の好循環 -

4つの柱が相互連携することで、好循環を生み出し、「暮らす人」、「商う人」、「訪れる人」の幸福度を維持・向上することで、持続可能なまちをつくる



暮らす人

「生活利便性の確保」×「地域コミュニティの活性化」

- 生活利便性（買い物や交通など）が整う
→ 日常の外出や交流が増えることで、地域コミュニティが活性化
- 地域コミュニティが活性化 → 見守り・助け合い・居場所が生まれ、安心して暮らせる環境が形成

「観光振興」×「生活利便性の確保」

- 観光コンテンツの磨き上げ
→ 交通・飲食などの質を高めることは、暮らす人の生活利便性の底上げへ繋がる

「産業振興」×「地域コミュニティの活性化」

- 産業（商い）が地域に根付く → 雇用や役割の場が生まれ、コミュニティに関わる人が増える

商う人

「生活利便性の確保」×「産業振興」

- 挑戦できる場の確保 → 生活利便性を確保することで、挑戦の土台を整える。

「地域コミュニティの活性化」×「産業振興」

- 地域コミュニティが活発 → 地元消費・応援・口コミが生まれ、新規事業が立ち上がりやすくなる

「観光振興」×「産業振興」

- 観光客が来る → 売上・認知・テストマーケットになることで、地域産業の振興に繋がる

訪れる人

「産業振興」×「観光振興」

- 地域産業が磨かれる → 食や体験などが観光資源になることで、「ここにしかない理由」が生まれる

「生活利便性の確保」×「観光振興」

- 暮らしやすいまち → 利便性が向上すれば、訪問する動機も高まり、「まち」に関わりたい人も増える

「地域コミュニティの活性化」×「観光振興」

- シビックプライドのあるまち → 地域コミュニティへの誇りが、地域の魅力を高め、観光から関係に変わる

目指すまちづくり - 事業一覧 -

地区の方向性（めざす姿）

買い物×公共交通

- 食料品等日常生活に必要なモノの買い物ができ、移動手段も確立されている

エリア価値の創出×地域住民の居場所づくり

- （仮称）大麻町総合防災センターや板東駅舎の再構築、大麻分署跡地等の活用を起点として、空き家活用により周辺エリア価値の創出が図られている。
- 定期的なマルシェ開催を通して、地域住民が集い、関係を育む居場所が創出されている。

伝統産業の更なる振興

- 大谷焼、蔵元などの伝統産業から「伝統×革新」による新たな価値（産業振興や関係人口増加など）が創出されている

シティプロモーションの強化

- 地域の魅力の再発見・発信することで、観光促進のみならず、シビックプライドの醸成や関係人口などが創出されている

関係人口の拡大とプロジェクトの創出

- 大麻町に関わりたい人が主体的に活動できる環境を整えることで、地域の福祉の向上に繋がる様々な事業が生み出されている

新たな産業の創出

- 起業Labから起業家が誕生し、新たな産業や取組が創出されている
- 耕作放棄地の有効利用が進み、農業振興が図れている

取り組みの方向性

時期

●短期…概ね5年以内 ●中期…概ね10年以内

●長期…それ以降

| 取り組み | 生活利便性の確保 | 産業振興 | 地域コミュニティの活性化 | 観光振興 | 時期 | その他 |
|--------------------------------------|----------|------|--------------|------|----------|-----|
| トレーラーハウスを活用した買い物場所等整備事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | 短期 | |
| デマンド交通を中心とする移動支援の充実 | ○ | ○ | ○ | ○ | 短期 | |
| （仮称）大麻町マルシェの開催 | ○ | ○ | ○ | ○ | 短期 | |
| 地域おこし協力隊を活用したシティプロモーションとプロジェクト運営サポート | | ○ | ○ | ○ | 短期 | |
| 「OTANI」×「OTANI」夢ボールプロジェクト | | ○ | ○ | ○ | 短期 | |
| （仮称）大麻町総合防災センター整備事業 | ○ | | ○ | ○ | 短期 | |
| 板東駅舎再構築事業 | ○ | | ○ | ○ | 短期 | |
| 「窯元×蔵元」共創事業 | | ○ | ○ | ○ | 短期 | |
| 大麻分署跡地の活用 | ○ | | ○ | | 中期 | |
| 空き家活用×エリア価値創出事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | 中期 | |
| 起業Labづくり | | ○ | ○ | | 中期 | |
| 耕作放棄地の活用 | | ○ | ○ | | 中期 | |
| デジタル技術を活用した新しいコミュニティの研究・検討 | ○ | ○ | ○ | ○ | 中期 長期 | |

※ここに掲載している事業は、取組の方向性として示したものであり、現時点で実施を決定しているものではありません。

今後、地域住民の意見や関係者との協議を踏まえながら、具体化を検討していきます。

※各事業の財源には、企業版ふるさと納税等を充当するなど、今後事業費の精査と併せて検討を進める予定です。

目次

CONTENTS

| | | |
|-------------------|-------------|----|
| 1 目指すまちづくり | | 4 |
| 2 短期的プロジェクトの概要 | > > > | 19 |
| 3 中期的プロジェクトの概要 | | 33 |
| 4 まちづくりの新しいカタチの検討 | | 39 |
| 5 今後の検討の流れ | | 44 |
| 6 参考資料 | | 46 |

02

短期的
プロジェクト
の概要

短期的プロジェクトの概要 ①トレーラーハウスを活用した買い物場所等整備事業

| | |
|----------|------|
| 生活利便性 | 産業振興 |
| 地域コミュニティ | 観光振興 |

- はじまり**
- ・ 買い物・立ち寄りという日常行動のはじまり
 - ・ 外に出る、顔を合わせるとい暮らしの動きのはじまり
- 醸す**

- ・生活利便性×地域コミュニティ⇒買い物を契機に、顔の見える関係を生みだす
- ・生活利便性×産業振興⇒買い物支援の実証から新たな事業の芽を育てる
- ・産業振興×観光振興⇒地域資源を活かした商品が町を訪ずれる理由となる
- ・地域コミュニティ×観光振興⇒日常の魅力が外部へ発信され、来訪者を増やす

- 企業版ふるさと納税の活用や、民間投資によるトレーラーハウス店舗（スーパーや飲食店など）を設置する社会実験から開始
- 移動可能なトレーラーハウスの利点を活かし、立地や商品構成などのマーケティングを実施

目指す姿 まずは官民連携による社会実験を展開し、民間投資を呼び込む

【ポイント】
暮らす人、訪れる人が楽しみ、満足する店づくり

トレーラーハウス保有

1 鳴門市保有【企業版ふるさと納税活用（物納）】

寄付者 物納 → 鳴門市 トレーラーハウスを貸出

- ・ 鳴門市との連携による社会実験を実施する事業者を公募
- ・ 鳴門市がトレーラーハウスを貸出し、公募者が運営
- ・ 企業版ふるさと納税の現金納付による取組も検討

2 民間事業者保有

- ・ 社会実験の結果を踏まえながら、トレーラーハウス店舗事業を実施する事業者への働きかけを検討
- ・ 事業者は、スーパー等の事業を実施

社会実験運営（案）

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>民間事業者</p> <p>スーパー</p> | <p>スーパーイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生鮮品、総菜等の食品や日用品を販売 |
| <p>飲食店・物販</p> | <p>飲食店・物販イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スイーツやパンが主役のベーカリー・カフェ ・ 子どもの遊び場 等 |

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ①トレーラーハウスを活用した買い物場所等整備事業

整備イメージ

軽飲食販売

屋内の子供の遊び場

食品売り場



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ①トレーラーハウスを活用した買い物場所等整備事業

内装イメージ



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ①トレーラーハウスを活用した買い物場所等整備事業

内装イメージ



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ②デマンド交通を中心とする移動支援の充実

生活利便性 → 産業振興
 地域コミュニティ → 観光振興

はじ
 まり

- ・ 移動に困っている人の外出機会の支援
- ・ 高齢者・子育て世代のコミュニティ参加のはじまり

醸
 す

- ・ 生活利便性×地域コミュニティ⇒移動機会の増加により交流が活発化
- ・ 生活利便性×産業振興⇒外出機会の増加が地域消費を創出
- ・ 生活利便性×観光振興⇒生活交通のほか、地域外を繋ぐ回遊性の向上
- ・ 地域コミュニティ×観光振興⇒地域への来訪が増え、町の魅力が広がる

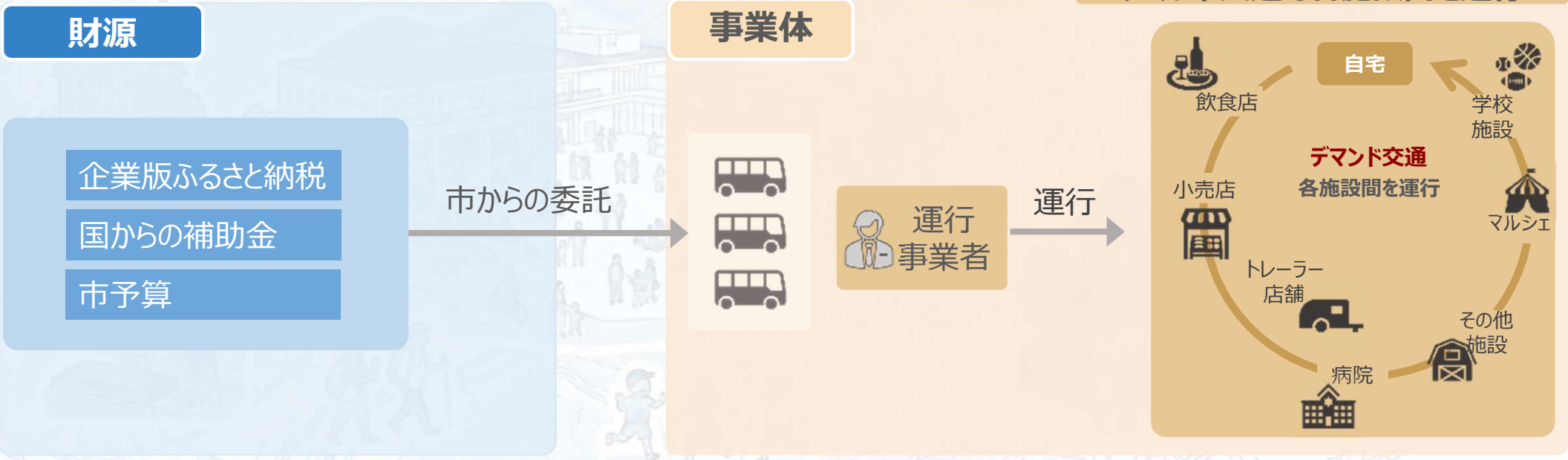


住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、生活実態に即した交通課題を明らかにする



買い物・通院など日常生活に必要な移動先への交通空白解消や広域移動支援の実現に向け、デマンド交通などの導入に向けた具体的検討や試行準備を進めるとともに、将来的なAI・自動運転の活用も視野に入れる。また、タクシーチケットの活用も地域ニーズ等も踏まえ検討する。

デマンド交通で各施設間を運行



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ③ (仮称) 大麻町マルシェ開催

はじ
まり

- ・ 地域住民・事業者などが集まるきっかけ
- ・ エリア価値創出の入口

醸す

- ・ 地域コミュニティ×産業振興⇒住民・事業者などの交流により商いが育つ
- ・ 産業振興×観光振興⇒地元食材や文化が体験コンテンツとして磨かれる
- ・ 地域コミュニティ×観光振興⇒地域の誇りや魅力が内外に発信される
- ・ 生活利便性×地域コミュニティ⇒日常的に立ち寄れる交流拠点が生まれる



大麻町での定期的なマルシェ開催を通じて、地域住民が自然に集い、顔を合わせ、関係を育む居場所を創出し、エリア周辺の価値向上に取り組む



道の駅「第九の里」やR9年度整備予定の(仮称)大麻町総合防災センターなど、色々な空間での実施を検討しながら、定期的なマルシェ開催に繋げる



定期開催

野菜
マルシェ

- 規格外野菜、有機野菜等の野菜を中心に、肉・魚介及び加工品が並ぶ

定期開催

屋台
横丁

- 飲食スペースを併設した、移動式屋台をつくり、鳴門市及び県内の飲食店が出店

定期開催

発表会
体験

- 学生や地域の団体による歌やダンスの発表会、練習の場や、体験型マルシェとして利用

不定期開催

コーヒー
フェス

- 徳島県内及び全国の有名なロースターが集結
(R7.5に徳島市で開催し大盛況)



【ポイント】

- ・ デマンド交通の利用
- ・ 暮らす人が楽しみ、商う人が商売し、訪れる人の目的地となる場をつくる



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります



- 外部視点の導入と行動力によるプロモーション
- 地域の魅力の再発見



- 産業振興×地域コミュニティ⇒地域の魅力発信により、関係人口や町への愛着が広がる
- 観光振興×地域コミュニティ⇒地域の魅力発信により、関係人口が増え交流が生まれる
- 産業振興×観光振興⇒地域の魅力発信により、来訪者が増えることで消費が生まれる



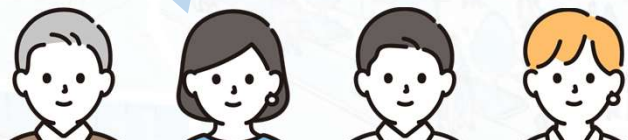
大麻町に特化した情報発信のための媒体が無く、良さや魅力が地域内外に知られていない



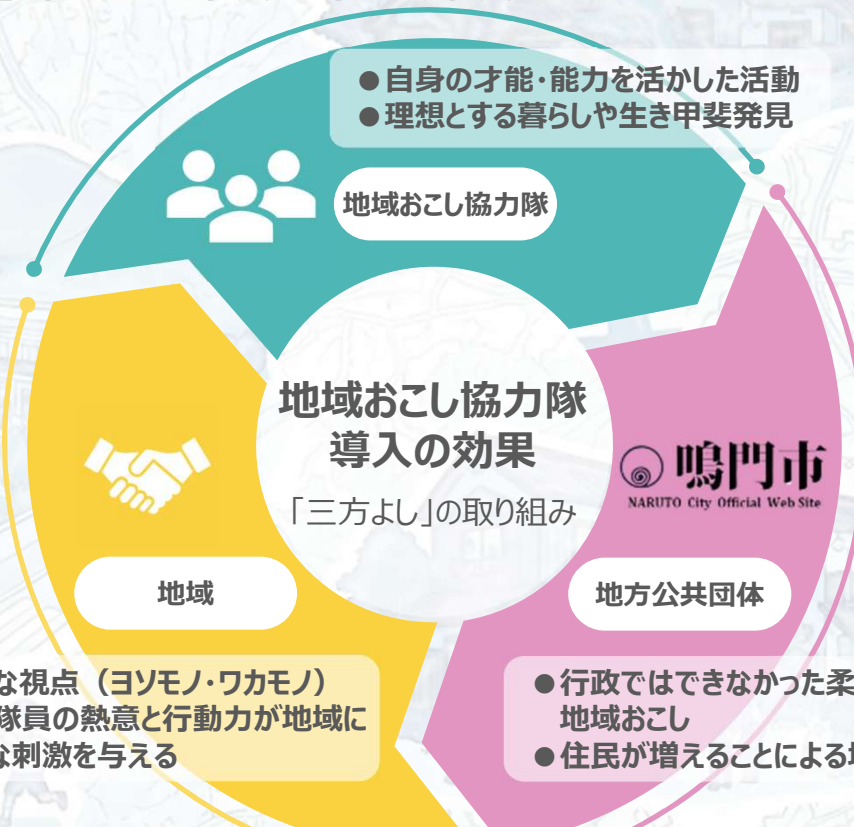
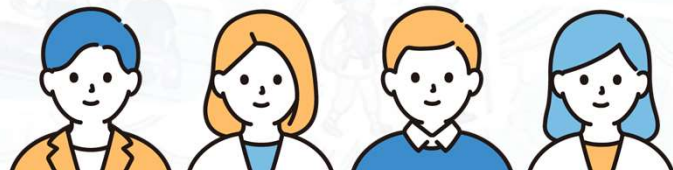
住みたい・訪れたい・関わりたいと思っていただける「まちづくり」に向け、地域住民とともに町や住民の魅力を、SNSやイベントを通して内外へ発信する



トレーラーハウス店舗や空き家活用など、プロジェクトの運営サポートを実施



地域おこし協力隊・地域・地方公共団体



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ⑤「OTANI」×「OTANI」夢ボールプロジェクト

生活利便性

産業振興

地域コミュニティ

観光振興

はじ
まり

- ・「大谷(地名・産地)」が「OTANI(世界的文脈)」と接続することで、地域の誇り・発信のスイッチが入る
- ・住民・事業者・若者が「自分ごと」として関われる
- ・外部(全国・世界)に向けて、大麻町の物語を語りはじめる
プロモーションの起点になる

醸す

- ・地域コミュニティ×産業振興⇒地域活動により、大谷焼のブランド価値が創出
- ・産業振興×観光振興⇒大谷焼そのものが、体験型コンテンツとして広がる
- ・地域コミュニティ×観光振興⇒地域の魅力発信により、町への訪問が生まれる



教育×文化×野球の市民参加事業 (イメージ)

STEP01



事業の出発点

鳴門の地域資源

- ・大谷焼 (伝統工芸)
- ・子ども達の夢
- ・野球



STEP02



事業内容

事業の流れ

- ① 夢を描く
 - ・大麻町の子ども達が将来の夢を言語化
- ② 夢を焼く
 - ・大谷焼に夢を描き焼き上げる
- ③ 夢を届ける
 - ・文化・教育事業として、大谷選手に届ける
 - ・世界へ発信

STEP03

事業効果

見える効果

- ① 教育効果
 - ・郷土愛の醸成
 - ・キャリア教育の深化
- ② 文化・産業効果
 - ・大谷焼の認知度向上
 - ・「工芸×スポーツ」の新たな価値
- ③ 観光、経済効果
 - ・来訪動機の明確化
 - ・体験型観光・消費の増加
 - ・「ふるさと納税」による、関係人口の拡大

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ⑥ 「窯元」 × 「蔵元」 共創コンテンツ創出事業

生活利便性

産業振興

地域コミュニティ

観光振興

はじ
まり

- ・「発酵(蔵) × 器(窯)」という大麻町らしい文脈で、新しい商品・体験・物語の起点が生まれる
- ・外部に向けて「大麻町は“はじまり”を醸す町だ」と示せる分かりやすい象徴例になる

醸す

- ・産業振興×観光振興 ⇒蔵と窯の“連携”が深まることでブランドの厚み(信頼・物語・継続性)が育つ
- ・産業振興×地域コミュニティ⇒共創が起点となり、他分野(農、観光、教育)へ連鎖する地域内循環・担い手の芽が醸成される
- ・観光振興×地域コミュニティ⇒大麻町らしさが発信されることで、シビックプライドの醸成を図る



企業版ふるさと納税を活用し、伝統×革新をテーマとした大谷焼の価値創造につながる事業を創出
「窯元×蔵元×専門家」によるプロジェクトチームを組成し、ブランディング・マーケティングなどを進める

座組



目的

1. 共創のコーディネート
2. ブランディング
3. マーケティング
4. プロモーション
5. 販路開拓

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ⑦ (仮称) 大麻町総合防災センター整備事業

はじ
まり

- ・ 災害時のためだけでなく、日常から使われる“フェーズフリー”な拠点として安心して集まれる・学べる・つながれる暮らしの入口をつくる
- ・ 健康・子育て・地域活動へと関与が広がる参加の入口になる

醸す

- ・ 生活利便性×地域コミュニティ⇒日常利用の積み重ねが、そのまま非常時の強さになる=共助力の向上
- ・ 地域コミュニティ×産業振興⇒地域交流の場として活用され、町の魅力を域外に届ける
- ・ 生活利便性×観光振興⇒訪れる人にとっても安心を与える拠点として、地域の安心と魅力を高める



防災センターは、地域住民が安心して暮らせる防災機能等を有するとともに、日常時から地域住民等に親しまれ、様々な人が交流することができる施設を目指します。(R9年度末整備予定)



| 施設 | 日常時 | 非常時 |
|-------------|------------------------------|---|
| スポーツジム | 健康増進やコミュニティの活性化を図る | シャワールームが避難者の衛生環境を整える、避難場所となる |
| コインランドリー | 快適で過ごしやすい生活を提供する | 洗濯機能の提供のほか、避難場所となる |
| コワークスペース | 仕事や学び、交流の場などのオフィス環境を提供する | 個別の配慮が必要な方の避難場所となる |
| キッズスペース・ロフト | 子育て世代の来訪促進や図書機能のある子どもの遊び場となる | 避難場所となる |
| 子ども学習室 | 学生などが利用できる自習スペースとなる | 避難時の子どもの居場所、避難場所となる |
| 大会議室・多目的室 | 会議室やイベントなど、市民交流の場を提供する | 災害時の司令塔として災害対策本部となる |
| 屋外テラス | 多目的に利用できる広場となる | 災害ベンチを利用した炊き出しができる 大型車も寄り付ける配慮であり、物資の仮置きができる |
| 消防車庫 | 消防車両が市民に安心感をあたえる | 前面道路に面しており、見通し良く安全で円滑出勤を行う |

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ⑦ (仮称) 大麻町総合防災センター整備事業

整備イメージ



スポーツジム

非常時にもシャワーが使えるスポーツジム



コインランドリー

避難場所にもなるコインランドリー



ワークスペース

プライバシー配慮や隔離ができるワークスペース



キッズスペース

県産木材を使用したぬくもりあるキッズスペース



キッズスペース

見通しの良い2階ロフトのキッズスペース



子ども学習室

非常時に子どもの居場所になる子ども学習室



大会議室・多目的室

見通しの良い建具で構成された大会議室・多目的室



屋外テラス


吹き出しができる屋外テラス



消防車庫

前面道路に沿った緊急車両の出動動線

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

 板東駅舎については、築90年以上が経過し、老朽化や耐震性の観点から、JR四国より安全性や維持管理の観点から解体について打診されている。

 歴史的・文化的価値の継承とコミュニティ機能を有し「まちの顔」として、建て替え等の検討を進める。

定期的な点検と、随時の修繕により駅舎の安全を確保している



○外壁の腐食、浮き



○土台の腐食、浮き



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要 ⑧板東駅舎再構築事業

生活利便性

産業振興

地域コミュニティ

観光振興

はじ
まり

- ・ 駅を単なる交通施設ではなく、遍路・第九・地域の暮らしへつながる入口にする
- ・ 「降りた瞬間に始まる」まちとして、来訪の最初の一步

醸す

- ・ 生活利便性×地域コミュニティ⇒駅を核に、交流や活動が生まれエリア価値が醸成される
- ・ 生活利便性×観光振興⇒霊山寺や遍路への玄関口として来訪者の滞在と回遊を広げる



リノベーション

現在の板東駅舎を補強・修繕し、内装をリノベーション

or

建て替え

バラック（板東俘虜収容所）等をモチーフに建て替え



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

目次

CONTENTS

| | | |
|-------------------|-------|----|
| 1 目指すまちづくり | | 4 |
| 2 短期的プロジェクトの概要 | | 19 |
| 3 中期的プロジェクトの概要 | | 33 |
| 4 まちづくりの新しいカタチの検討 | | 39 |
| 5 今後の検討の流れ | | 44 |
| 6 参考資料 | | 46 |

03

中期的
プロジェクト
の概要

中期的プロジェクトの概要 ①起業Labづくり

はじ
まり

・ 地域課題の解決や新しい挑戦に取り組む人が集まり
事業アイデアや製品づくりに挑戦できる環境が生まれる

醸す

・ 産業振興×地域コミュニティ⇒新しい産業の芽が育ち、挑戦する人同士の
繋がりの醸成や担い手が育つ

官民連携による、空き家などを活用した、地域課題解決を目的とした事業や製品づくりをサポートする拠点 を整備する
起業や事業アイデアを具現化を目指す「起業Lab」と、新たな製品づくりをサポートする「ものづくりLab」を設置

利用対象者

- ・ 利用対象者は、大麻町民や大麻町に関わり
地域課題解決を目指す事業者等

目指す効果

起業を目指す人や地域資源を活用した事業
に取り組む人が集まり、専門家の支援を受け
ながら事業アイデアの実現や製品づくりに挑戦
できる環境づくりを目指す。

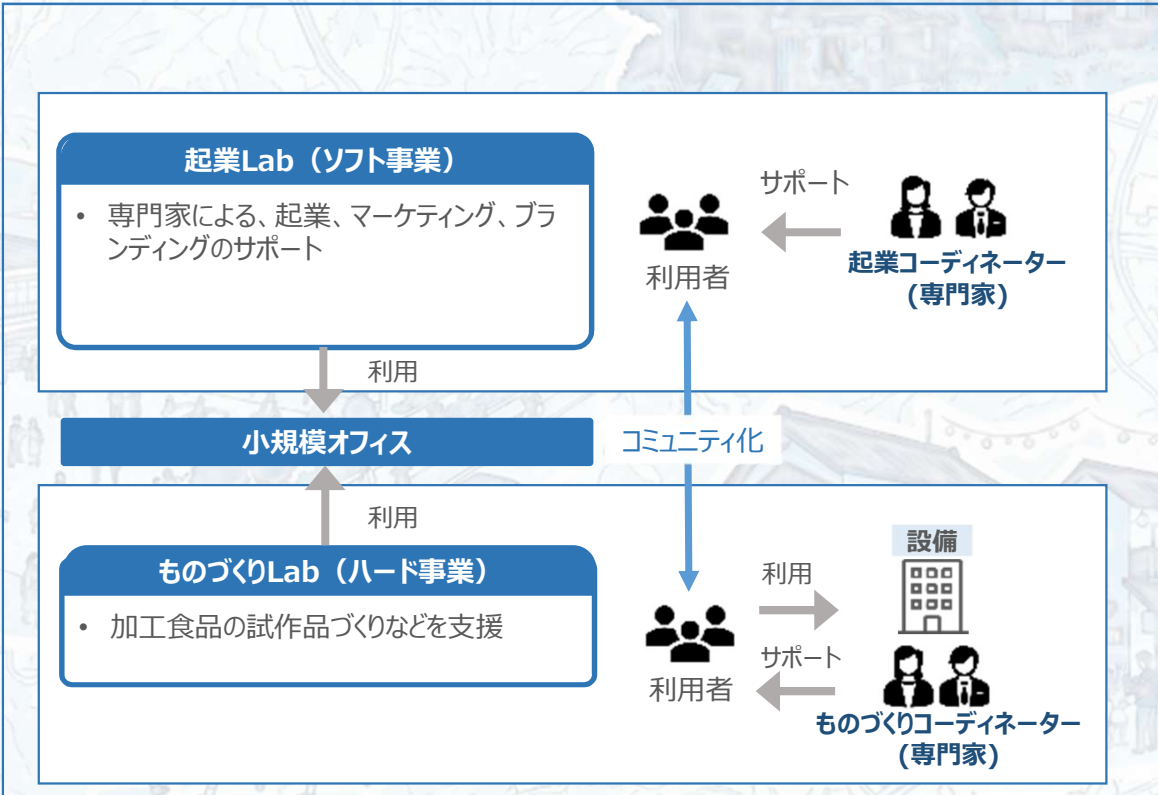
この取組を通じて、

- ・ 新しい産業の芽を育てる
- ・ 挑戦する人材を育成する
- ・ 地域内のつながりを生み出す

ことを目指す。

※具体的な事業内容については、今後の関
係者との協議等により検討する。

運営概要イメージ



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

中期的プロジェクトの概要 ②耕作放棄地の活用

生活利便性

産業振興

地域コミュニティ

観光振興



- ・ 放置されていた土地の再利用の一步
- ・ 農業・交流・実験的利用の開始



- ・ 産業振興×地域コミュニティ⇒新規就農などの担い手が育ち、農業を通じた交流やコミュニティが広がる



【地域農業の承継】

新規就農者づくりにより、れんこん・水稻栽培の承継、こうのとりブランドなどの振興を推進



【新事業への挑戦】

農地を利用した陸上養殖、新たな農業品目の栽培など新しい事業への参入を検討

【地域農業の承継】

堀江地区地域計画（令和7年3月）

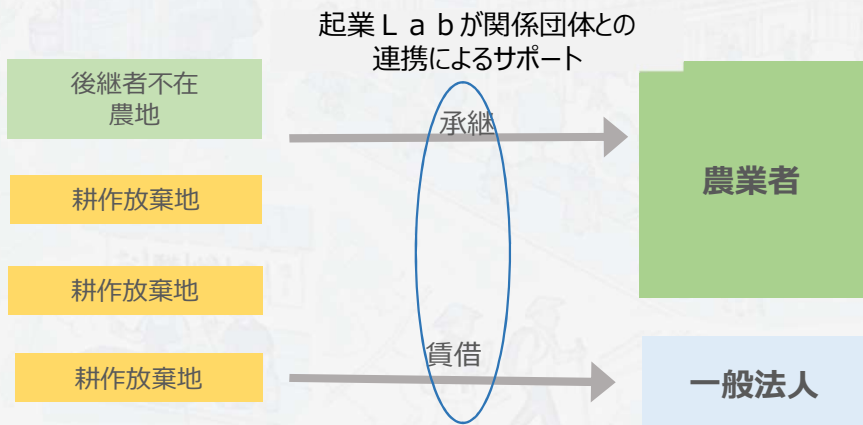
- ・ 今後規模縮小などの意向あり 9.8ha
- ・ 70歳以上の農業者の農地 55ha
(うち後継者不在14.7ha)
- ・ 遊休農地 11ha

板東地区地域計画（令和7年3月）

- ・ 今後規模縮小などの意向あり 6ha
- ・ 70歳以上の農業者の農地 57ha
(うち後継者不在13.9ha)
- ・ 遊休農地 23ha

【取組概要】

- ・ 担い手不足などにより増加している耕作放棄地については、地域資源としての活用を検討する。
- ・ 起業Labなどとの取組と連携しながら、農業や地域資源を活用した事業に挑戦する人材を受け入れるとともに、起業Labが関係団体と連携しながら農地と挑戦する人をつなぐ役割を担い、基幹産業である農業の振興やビジネスの創出につなげていく。
- ・ こうした取組を通じて、農地の有効活用とともに、新しい産業や人の流れを生み出し、地域のにぎわいを創出していくことを目指す。
- ・ また、担い手が見つからないなど、基幹産業での活用が難しい場合は、陸上養殖など、別途新しい事業を検討し、官民連携での取組を目指す。



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

中期的プロジェクトの概要 ③大麻分署跡地の活用

生活利便性

産業振興

地域コミュニティ

観光振興

はじ
まり

- ・「使われない場所」を「始められる場所」に転換し、地域内の挑戦の入口を増やす
- ・行政がまず“使ってみせる”ことで、民間や地域が参画しやすい最初の一步をつくる

醸
す

- ・産業振興×地域コミュニティ⇒地域課題の解決や新しい取組の場となり、地域の担い手や挑戦が広がる



(仮称) 大麻町総合防災センターの整備後における大麻分署跡地の活用方法については決まっておらず、今後の検討事項。



(仮称) 大麻町総合防災センターとの連携促進など、地域住民の方のご意見もいただきながら、利活用方法を考えていく。



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

中期的プロジェクトの概要 ④空き家活用×エリア価値創出事業

生活利便性 → 産業振興
 地域コミュニティ → 観光振興

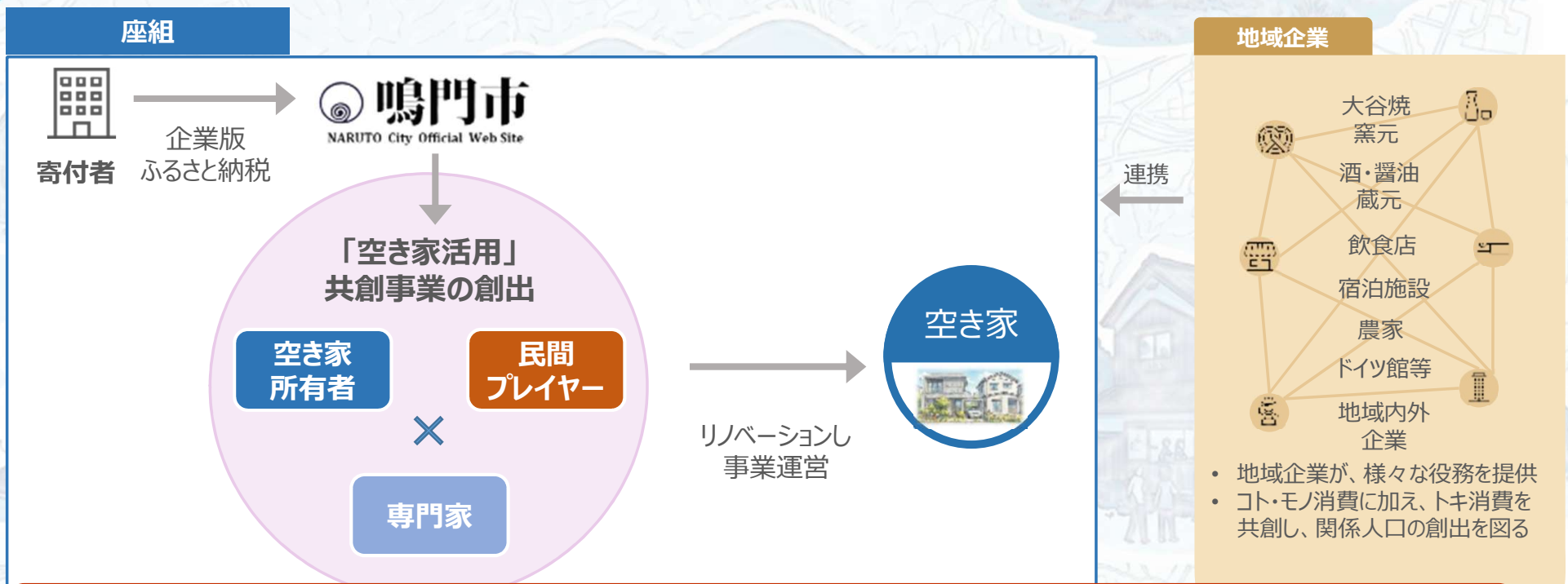
- はじまり**
- ・使われていなかった場所での活動の再開
 - ・移住・起業・挑戦の入口

- 醸す**
- ・生活利便性×地域コミュニティ⇒身近な場に活動が生まれ、交流が広がる
 - ・生活利便性×観光振興⇒滞在機能により、地域で過ごす時間が増える
 - ・産業振興×観光振興⇒地域資源による食・体験などのビジネスが生まれる
 - ・産業振興×地域コミュニティ⇒新しい挑戦が生まれ、担い手が育つ

『地域の特徴を活かしたアセットづくり × 大麻町をめぐる観光及び体験コンテンツ』による“賑わい創出”と“観光振興”

官民連携事業として推進

板東駅、霊山寺、(仮称)大麻町総合防災センターを結ぶエリア等の空き家活用を検討



- ・地域企業が、様々な役務を提供
- ・コト・モノ消費に加え、トキ消費を共創し、関係人口の創出を図る

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

目次

CONTENTS

| | | |
|-------------------------|-------|----|
| 1 目指すまちづくり | | 4 |
| 2 短期的プロジェクトの概要 | | 19 |
| 3 中期的プロジェクトの概要 | | 33 |
| 4 まちづくりの新しいカタチの検討 > > > | | 39 |
| 5 今後の検討の流れ | | 44 |
| 6 参考資料 | | 46 |

04

まちづくりの
新しいカタチの検討

「デジタル技術」の活用によるまちづくりの検討

- 住民と関係人口連携による新しいまちづくりのカタチ -

はじ
まり

- ・ 意思決定への参加
- ・ 立場を超えた関与の入口

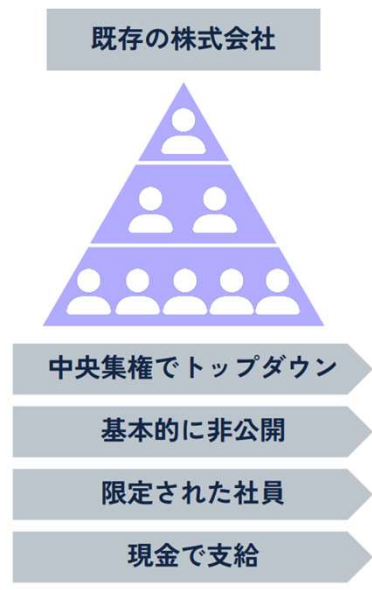
醸す

- ・ 生活利便性×地域コミュニティ ⇒ 地域課題を共有し、暮らしを支える助け合いの取組が生まれる
- ・ 生活利便性×観光振興 ⇒ 地域内外の人の関わりが広がり、交流や滞在の機会が生まれる
- ・ 産業振興×観光振興 ⇒ 地域資源を活かした商品・体験・サービスが生まれる
- ・ 産業振興×地域コミュニティ ⇒ 新たな挑戦や事業の芽が生まれ、担い手が育つ

DAO (Decentralized Autonomous Organization : 分散型自律組織) とは

新たな
組織運営 & 資金調達
の仕組み

- ・ 特定のリーダーや管理者を置かず、参加者が対等な関係で、自律かつ分散的に運営される組織形態
- ・ 取締役会や社長といった経営者が意思決定する、「会社組織」とは違い、メンバー全員で意思決定を行う
- ・ 参加者には株式ではなくトークンが割り当てられ、意思決定の投票などに使う（投票権は出資額にかかわらず、ひとり1票）
- ・ DAO内の事業への貢献度に応じた報酬がトークンで還元され、施設の利用券などで使用できる
- ・ 収益を配当する仕組みをつくることも可能



組織と意思決定
情報の透明性
働く人
報酬



ポイント

投票などの取引は、ブロックチェーンとスマートコントラクトを使用することで、人が介在することなく取引が可能

ブロックチェーンとは
ネットワーク上で、「ブロック」と呼ばれるデータを「チェーン（鎖）」のようにつないで記録する仕組み。記録したデータの消去や改ざんができない、デジタル帳簿のようなもの。
(例) 仮想通貨、トレーサビリティ (いつ、どこで、だれが作ったか等の記録) など

スマートコントラクトとは
あらかじめ決めたルールに従って、契約や取引を自動的に実行するプログラムのこと。
(例) 自動販売機
・150円を入れてボタンを押すというルールに基づき、飲み物がでてくる (実行)

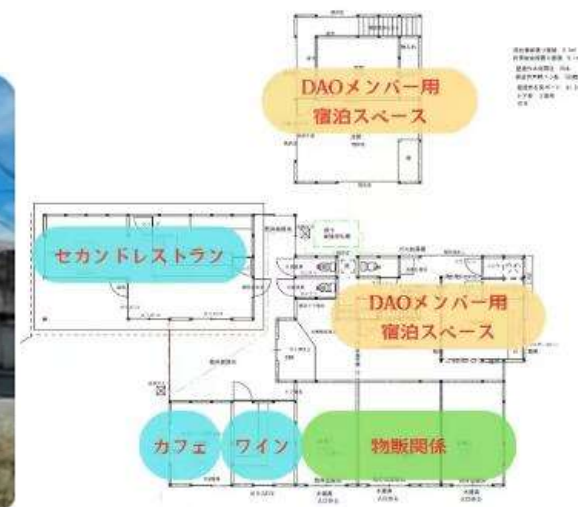
DAOとは ②事例 - 身の丈商店街DAO (香川県三豊市) -

プロジェクト開始日：2025年7月22日 募集締切：2025.9月末 参加者数：118/400名
 累計調達額：¥14,800,000- (目標額：¥40,000,000-) 2026.1.27時点
 投資特典：宿泊施設の宿泊券 (年間5泊分を10年間) 参加者 132名
 スナックでのハイボールが1杯無料 調達額 17,500千円
 収益金の一部を配当

| 参加者属性 | |
|--------|-------|
| 首都圏 | 39.8% |
| 香川県 | 25.4% |
| その他四国 | 4.3% |
| 中部 | 7.6% |
| 北海道・東北 | 8.5% |
| 近畿 | 5.1% |
| 中国 | 5.1% |
| 九州 | 4.2% |

「身の丈ストリート」は日本初の商店街DAO

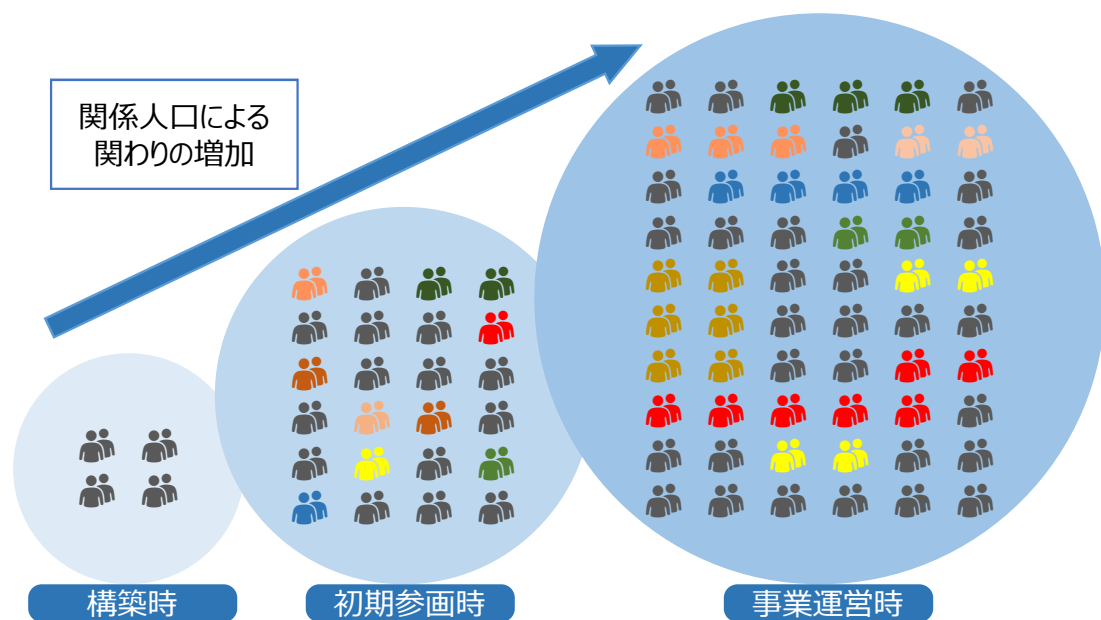
- 香川県三豊市仁尾町にて、民間事業者が株式会社型DAOを活用し実施する、商店街を中心とした地域再生事業
- 地域住民と関係人口が共につくる'新しい商店街の在り方'を提案することを目的とした、空家のリノベーションとDAOによる共助型運営を組み合わせた地域再生モデル



DAOとは ③なぜDAOなのか

大麻町のまちづくりやプロジェクトと関わりたいと思う、 多様な人材が参画できる“関わりしろ”となり 「一人ではできないプロジェクトをみんなで実現する」

- ・ 参画者（出資者）全員で事業運営を実施
- ・ まちづくりの目指す姿や、事業設計を全員で実施
- ・ そのために、全員が自分事として組織運営にかかわることができる



DAOを検討する理由

人口減少が進む中、地域づくりは行政が行うだけでは維持が難しくなっています。

一方で、大麻町には

- ・ 地域に関わりたい住民
- ・ 移住者
- ・ 地域外の関係人口
- ・ 専門性を持つ人材

など、多様な人材が存在しています。

しかし、これらの人材が継続的に関わる仕組みは十分に整っていませんが、DAOは「関わりたい人が継続的に関わる仕組み」です。

DAOは

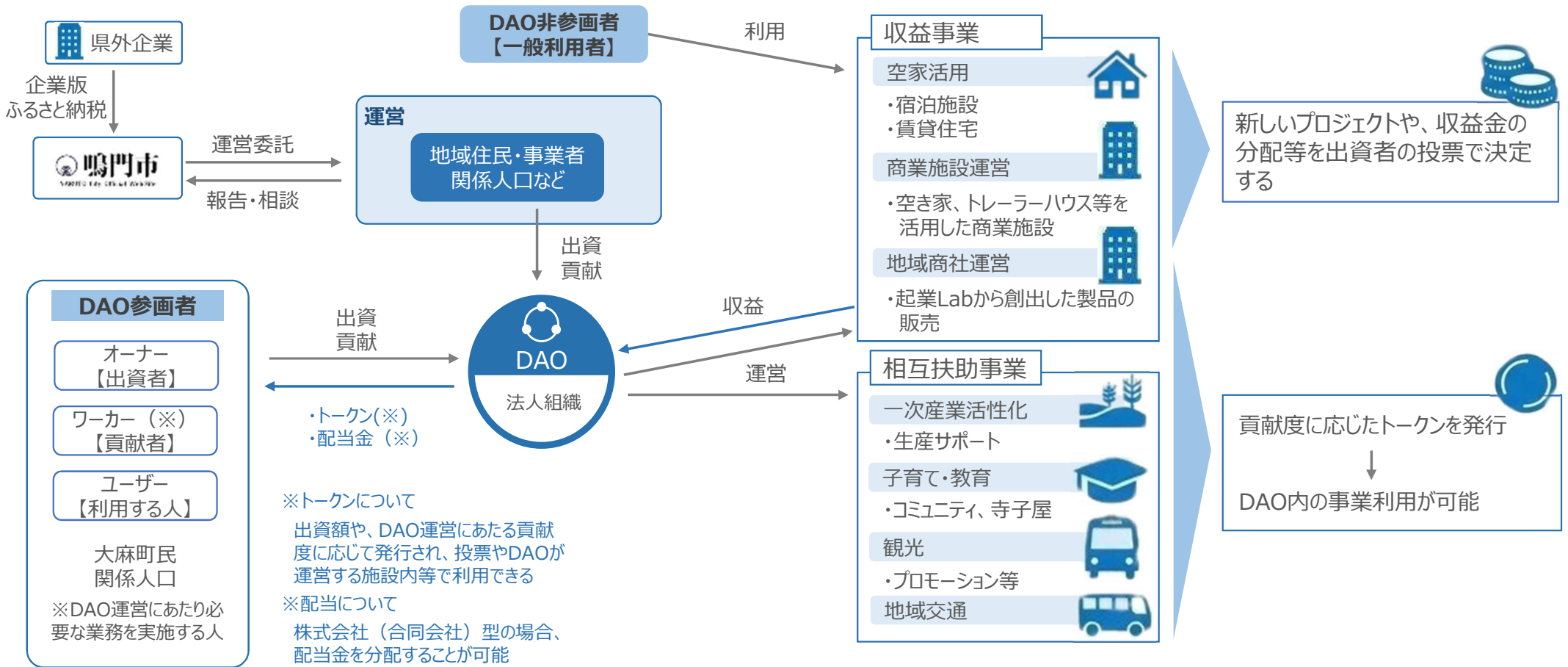
- ・ 参加
- ・ 出資
- ・ 貢献
- ・ 利用

を組み合わせた仕組みであり、住民・関係人口などが共に関わる仕組みとして活用する可能性を検討します。

※具体的な仕組みは今後、専門家や関係者と実現可能性を検討します。

DAO設立のアウトライン

 鳴門市が企業版ふるさと納税を活用し、官民連携によりDAOを組成



※現時点での方向性のイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

目次

CONTENTS

| | | |
|-------------------|-------|----|
| 1 目指すまちづくり | | 4 |
| 2 短期的プロジェクトの概要 | | 19 |
| 3 中期的プロジェクトの概要 | | 33 |
| 4 まちづくりの新しいカタチの検討 | | 39 |
| 5 今後の検討の流れ | | 44 |
| 6 参考資料 | | 46 |

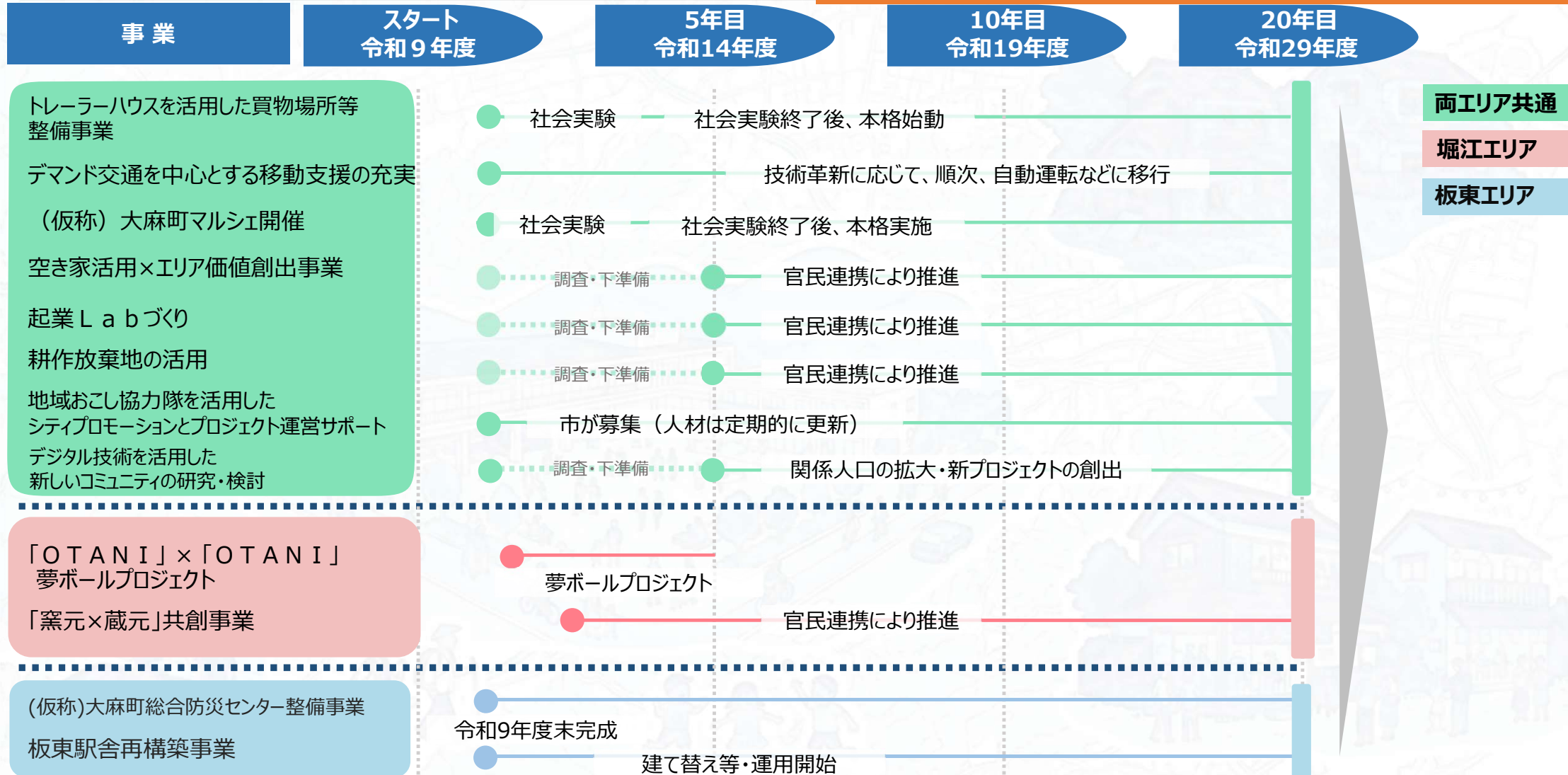


05

ロードマップ^o

今後の検討の流れ - 堀江エリア・板東エリア・両エリア共通 -

本ロードマップは、各施策の実施を確定するものではなく、今後の検討・調整の方向性を示すものである。実施段階への移行については、関係者協議や事業主体の整理等を踏まえ、個別に判断していく



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

目次

CONTENTS

| | | |
|-------------------|-------|----|
| 1 目指すまちづくり | | 4 |
| 2 短期的プロジェクトの概要 | | 19 |
| 3 中期的プロジェクトの概要 | | 33 |
| 4 まちづくりの新しいカタチの検討 | | 39 |
| 5 今後の検討の流れ | | 44 |
| 6 参考資料 | | 46 |



06

参考資料

考え方について

10月16日の第2回「大麻町未来づくり会議」では、ワークショップを実施し、地域資源の活用、交流の場づくり、産業振興、移動手段の確保など、大麻町の将来に関する様々な意見や提案が出されました。

これらの意見は、地域の課題や将来像を検討するうえでの重要な視点として受け止め、課題整理や取組の方向性の検討に際して参考としています。

本ページ以降では、ワークショップでいただいた主な意見と、それらがランドデザインの中でどのような方向性として整理されているかについてまとめています。

なお、ランドデザインは地域の将来像や取組の方向性を体系的に示すものです。このため、いただいた意見については、実現可能性や各制度・計画との整合性、事業主体の状況や個別事業での対応の有無などを総合的に踏まえ、

- ・ランドデザインの中で直接的に反映しているもの
- ・代替的な取組も含め趣旨を反映しているもの
- ・他の計画や制度の中で対応するもの、又は国等の主体により対応するもの

などに整理しています。

また、本ランドデザインに直接位置づけていない意見についても、今後の施策検討や関係機関との協議において重要な視点として共有するなど、貴重な意見として取り扱っていきます。

ワークショップでの主な意見とランドデザインの方向性 - 観光振興・賑わい創出に関する意見 -

| NO | 委員意見 | ランドデザインの位置づけ | 整理の方向性 |
|----|---------------------------------------|--------------|--|
| ① | (仮称) 大麻町総合防災センターに、観光案内や移住相談、空き家相談等を設置 | ○ | 大麻分署や板東連絡所跡地での対応を含め、検討を進める |
| ② | 大麻分署や板東連絡所跡地にチャレンジキッチンやお試し居住スペースを設置 | ◎ | 大麻分署や板東連絡所跡地での対応を含め、検討を進める |
| ③ | メディアやSNSを活用した情報発信 | ◎ | 地域おこし協力隊や地域事業者等と連携しながらSNS等を活用したプロモーションの取組について検討を進める |
| ④ | GWやシルバーウィークのシャトルバスの運行 | ○ | R8年度に実施予定の住民ニーズ調査等に基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の在り方を検討する中で、観光需要への対応も併せて検討を進める |
| ⑤ | ドイツ館周辺で第九を歌うなどのPR強化 | ◎ | (仮称) 大麻町マルシェの中で第九の歴史発信を行うPRイベントについて検討を進める |
| ⑥ | 道の駅「第九の里」の内装改装により体験機能を強化 | ○ | (仮称) 大麻町マルシェとの連携により、体験イベントを行い、その需要を踏まえながら内装改修による体験機能の強化に関して検討を進める |
| ⑦ | コウノトリ関連商品や大麻町グルメを新たにつくる | ◎ | 空き家やトレーラーハウスを活用する中で地域事業者等と連携して検討を進める |
| ⑧ | 空き家や空き店舗を活用して県内外から商売をしたい若者を誘致 | ◎ | 空き家やトレーラーハウスを活用する中で地域事業者等と連携して検討を進める |
| ⑨ | 町内にビジネスホテルを誘致 | ○ | まずは、空き家活用の中で簡易な宿泊機能の可能性について検討し、その需要等を踏まえ、民間事業者による実現可能性について調査・研究をしていく |
| ⑩ | 池谷駅や板東駅、高速鳴門西パーキングエリアを活用して観光客の誘致を図る | ○ | 駅やPAなどの交通結節点との連携を図りながら、地域おこし協力隊等によるプロモーションの取組について検討を進める |
| ⑪ | レンタカーやレンタサイクルを充実させる | ○ | R8年度に住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の導入検討の中でレンタサイクル等の可能性の検討を進める |
| ⑫ | 阿波神社の有効活用 | ○ | 地域おこし協力隊等によるプロモーションにより魅力発信の取組について検討を進める |
| ⑬ | 大谷焼の蔵めぐりなど、大谷焼の魅力を発信 | ◎ | 「OTANI」×「OTANI」夢ボールプロジェクト、「窯元」×「蔵元」共創コンテンツ創出事業により、大谷焼の魅力向上について検討を進める |
| ⑭ | 温泉施設の整備 | ○ | 空き家活用事業の中で民間事業者と連携し、飲食や滞在機能の整備を検討することとしており、その中で温浴施設の実現可能性について調査・研究等を進める。 |
| ⑮ | 市街化調整区域などの都市計画の変更 | — | 市街化調整区域では、原則開発が抑制されているが、地域の生活や産業に必要な施設については、例外的に建築や開発することができる制度があり、当該制度の説明を丁寧に行い、意見交換を通じて、制度の活用を考える。 |

- 【凡例】
- ◎：ランドデザインに直接反映しているもの
 - ：代替的な取組等により趣旨を反映しているもの
 - ：他の計画・制度で対応するもの、国等の他の主体の進捗状況を踏まえ対応するもの、又は現状説明により対応するもの

ワークショップでの主な意見とランドデザインの方向性 - 産業振興・企業誘致に関する意見 -

| NO | 委員意見 | ランドデザインの位置づけ | 整理の方向性 |
|----|------------------------------------|--------------|---|
| ① | 休耕田を活用した陸上養殖 | ○ | 耕作放棄地を活用する中で実施可能性の検討を進める |
| ② | 国が進めている板東谷川の河口付近の工事に併せて公園を整備 | — | 事業主体である国としては、コウノトリの餌場に適した湿地づくり等を優先する方針である。今後の展開を注視していく |
| ③ | 買い物機能の強化のため道の駅のリニューアルや場所を変更 | ○ | 道の駅の場所を変更するのではなく、移動支援の強化の検討や、トレーラーハウスの活用などにより買い物支援の充実に関する検討を進める |
| ④ | SNSなどを使った積極的なPR | ◎ | 地域おこし協力隊等によるプロモーションにより対応の検討を進める |
| ⑤ | 道の駅「第九の里」の再整備 | ○ | 立地条件や事業採算性なども踏まえると、直ちに大規模な再整備を行うことは容易ではない面もありますが、まずは（仮称）大麻町マルシェなどの取組を通じて交流機能の充実や施設の活用を図りながら、地域の拠点施設としての機能強化や今後のあり方について検討していく。 |
| ⑥ | 市街化調整区域の見直し | — | 市街化調整区域では、原則開発が抑制されているが、地域の生活や産業に必要な施設については、例外的に建築や開発することができる制度があり、当該制度の説明を丁寧に行い、意見交換を通じて、制度の活用を考える。 |
| ⑦ | 旧堀江公民館を活用する | ◎ | 空き家などの既存ストックの活用を検討する中で地域事業者等と連携しながら検討を進める |
| ⑧ | 堀江で日用品が変える場所を整備する | ◎ | 空き家やトレーラーハウス店舗を活用する中で地域事業者等と連携しながら検討を進める |
| ⑨ | 民泊などにより観光客を循環させる | ◎ | 空き家活用を検討する中で地域事業者等と連携しながら検討を進める |
| ⑩ | TSMCやパソナなどの大企業を誘致する | — | 企業誘致は、市全体の産業振興を進める施策の中では重要な観点であり、市の総合戦略の重点事業に位置付けていることから、本ランドデザインの直接の取組としては位置付けていないが、今後の可能性については別途検討を進める |
| ⑪ | 国が板東谷川の河口付近で工事を行っているが、当該エリアを川の駅にする | — | 事業主体である国としては、コウノトリの餌場に適した湿地づくり等を優先する方針である。今後の展開を注視していく |

【凡例】

- ◎：ランドデザインに直接反映しているもの
- ：代替的な取組等により趣旨を反映しているもの
- ：他の計画・制度で対応するもの、国等の他の主体の進捗状況を踏まえ対応するもの、又は現状説明により対応するもの

ワークショップでの主な意見とランドデザインの方向性 - 子育て支援・教育環境の充実に関する意見 -

| NO | 委員意見 | ランドデザインの位置づけ | 整理の方向性 |
|----|-----------------------------|--------------|---|
| ① | 子育て世帯の人たちが集まれる公園・飲食機能などの整備 | ◎ | 子どもの遊び場機能を有するトレーラーハウスの店舗、（仮称）大麻マルシェなどの取組により、小さな取組からスタートし、子育て世代も利用しやすい交流の場を段階的に創出していくなど、子育て世帯が集まれるエリアの整備について検討を進める |
| ② | 子ども達が公共交通で市内を回れたり部活動に通えるように | ◎ | R 8年度に住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の導入について検討を進める |
| ③ | 人口が減る中で小中一貫校の整備 | — | 学校再編などを検討する中で、教育環境の在り方の一つとして教育委員会が別途検討を進める |
| ④ | 津波が来ないエリアとしてアピール | ◎ | （仮称）大麻町総合防災センターの整備や地域おこし協力隊によるプロモーションにより検討を進める |
| ⑤ | ドイツなどの国際色の強さを教育に活かす | — | 既に第九学習を取り入れているところであるが、来年度改正予定の教育振興計画の中で、実現可能性などを含め教育委員会にて検討する |

【凡例】

- ◎ : グランドデザインに直接反映しているもの
- ○ : 代替的な取組等により趣旨を反映しているもの
- — : 他の計画・制度で対応するもの、国等の他の主体の進捗状況を踏まえ対応するもの、又は現状説明により対応するもの



ワークショップでの主な意見とランドデザインの方向性 - 公共交通と移動支援に関する意見 -

| NO | 委員意見 | ランドデザインの位置づけ | 整理の方向性 |
|----|---|--------------|--|
| ① | 鳴門線を廃止しシャトルバスで対応 シャトルバスは70歳以上でも有料の方が良い | ○ | 運行主体であるJR四国の動向に注視しながらR8年度に住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の導入を検討する。その中でシャトルバスの可能性についても検討を進める |
| ② | 池谷駅を引田駅のように改築する | — | 施設の整備主体であるJR四国は、より老朽化が著しい板東駅の建て替え等を優先している状況であり、現時点で池谷駅よりも板東駅での検討を優先している |
| ③ | タクシーチケットを配布する | ○ | デマンド交通を中心に検討を進める中で、利用者ニーズ等も踏まえながら必要に応じてタクシーチケットの活用を検討する。 |
| ④ | 高速道路を降りる際に料金がかからない仕組みを導入 | — | ETC2.0搭載車限定で道の駅を利用する際にICで一旦降りても料金が発生しない「賢い料金制度」については国による社会実験として行われている。今後の国の動向を注視していく |
| ⑤ | 高校の学区制が廃止される中で鳴門線は残してほしい | — | 鉄道の運行はJR四国が主体となるものですが、市としても地域の移動手段を確保する観点から、動向を注視していくとともに、利用促進などの検討を進める |
| ⑥ | 道路を整備してほしい | — | 国・県・市の道路整備計画の中で必要性や優先度を踏まえ検討していく |
| ⑦ | レンタサイクルを充実してほしい | ○ | R8年度に住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の導入を検討する。その中でレンタサイクルの可能性についても検討を進める |

【凡例】

- ◎ : グランドデザインに直接反映しているもの
- : 代替的な取組等により趣旨を反映しているもの
- : 他の計画・制度で対応するもの、国等の他の主体の進捗状況を踏まえ対応するもの、又は現状説明により対応するもの